

直接散布用

速溶性顆粒剤

速溶性錠剤

ペースサンニュートラル[®] HG



荷姿：NET12kg 段ボール（1kg×12袋）

成分

ジクロロイソシアヌール酸ナトリウム 有効塩素量約63%

特長

- 水に溶け易く、薬剤投入後、速やかに溶解し、効果を発揮します。
- 薬剤のpHはほぼ中性ですから、薬剤投入によるプールの水のpHへの影響はほとんどなく、水質管理が容易に行えます。
- 直接、プールに投入しても薬剤によりプールの塗装や材質を傷める心配はありません。

使用方法

- プール水の塩素処理
 遊泳開始5分から20分前に標準使用量をプールサイドから、できるだけ均一になるように散布してください。
 風の強い日はあらかじめポリバケツで本剤を水に浸してから散布してください。

標準使用量（3～4時間管理）

- 水1m³に対し、本品2～3gの割合でプール内に投入するか、溶解させて循環水に注入してください。

遊泳中の残留塩素の補充は、プールの水100m³当たり残留塩素0.1mg/ℓ上昇させるのに20g必要です。

ペースサンニュートラル[®] NT



荷姿：NET10kg 段ボール（1kg×10袋）

成分

ジクロロイソシアヌール酸ナトリウム 有効塩素量約56%

特長

- 水に溶け易く、薬剤投入後、速やかに溶解し、効果を発揮します。
- 薬剤のpHはほぼ中性ですから、薬剤投入によるプールの水のpHへの影響はほとんどなく、水質管理が容易に行えます。
- 直接、プールに投入しても薬剤によりプールの塗装や材質を傷める心配はありません。

使用方法

- プール水の塩素処理
 遊泳開始5分から20分前に標準使用量をプールサイドから、できるだけ均一になるように投入してください。

標準使用量（3～4時間管理）

- 水6～9m³に対し、本品1錠の割合でプール内に投入するか、溶解させて循環水に注入してください。

遊泳中の残留塩素の補充は、プールの水100m³当たり残留塩素0.1mg/ℓ上昇させるのに約1錠20g必要です。



他の塩素系薬剤、次亜塩素酸ソーダ、次亜塩素酸カルシウムとの混合は絶対にしないでください。
 また、酸、脱塩素剤、油脂類、その他可燃物とは直接触れないようにしてください。
 ご使用前に安全データシート(SDS)を必ずご確認ください。

塩素自動供給機(ペースフィーダー[®])用

持続性顆粒剤

ペースサントップ[®]G

荷姿：NET12kg 段ボール(1kg×12袋)

成分

トリクロロイソシアヌール酸 有効塩素量約90%

特長

- 塩素濃度は高く持続性に優れ、強力な除菌・消毒効果を発揮します。
- 本剤専用の塩素自動供給機「ペースフィーダー」を使用することで、遊泳中でも塩素が均一に長時間供給されます。
- 遊泳中でも薬剤が直接、人に触れることなく安全に供給できます。

使用方法

- プール水の塩素処理

本剤専用のペースフィーダーを使用してください。遊泳開始30～60分前に標準使用量を充填し供給を開始してください。



標準使用量(1日管理)

- 水1m³に対し、本品2～4gの割合でペースフィーダーに投入してご使用ください。

注意・警告事項

- ペースフィーダーにはペースサントップG以外の薬剤を絶対に使用しないでください。
- プールの塗装を傷め脱色させますので、カラフルなプールへの直接投入はしないでください。
- 長時間使用するとプール水のpHが下がる場合があります。その場合はタキペーハープラスでpHを上げてください。

浮遊式塩素供給器(サンフロータ[®])用

持続性錠剤

ペースサントップ[®]T

荷姿：NET10kg 段ボール(1kg×10袋)

成分

トリクロロイソシアヌール酸 有効塩素量約90%

特長

- 本剤を浮遊式塩素供給器「サンフロータ」に充填し、プールに浮かべると水中でゆっくり溶解し塩素を供給します。
- プールを休止する期間や夜間の塩素供給に最適です。

使用方法

- プール水の塩素処理

本剤専用のサンフロータを使用してください。一回の薬剤充填(1kg)で約5日間、塩素を供給できます。プールの大きさに合わせて必要な基数のサンフロータをプールに浮かべてください。



標準使用量(薬剤1kg充填の場合)

- 水100m³に対し、サンフロータ1基にて、約5日間使用可能です。

注意・警告事項

- サンフロータにはペースサントップT以外の薬剤を絶対に使用しないでください。
- プールの塗装を傷め脱色させますので、カラフルなプールへの直接投入はしないでください。
- 長時間使用するとプール水のpHが下がる場合があります。その場合はタキペーハープラスでpHを上げてください。

他の塩素系薬剤、次亜塩素酸ソーダ、次亜塩素酸カルシウムとの混合は絶対にしないでください。
また、酸、脱塩素剤、油脂類、その他可燃物とは直接触れないようにしてください。
ご使用前に安全データシート(SDS)を必ずご確認ください。